宮城県さけます増殖協会

知事・県議会議長への要望書提出関係資料

Ver.10

令和3年12月16日

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書提出先

令和3年12月16日

○ 宮城県知事 村井 嘉浩 殿

以下、知事あて要望書写しを配布

宮城県水産林政部長 佐藤 靖 殿

宮城県水産林政部副部長 髙橋 義広 殿

宮城県水産業基盤整備課長 佐藤 崇 殿

○ 宮城県議会

議 長 菊地 恵一 殿

○ 農林水産委員会

委員長 村上 久仁 殿

○ 自由民主党·県民会議水産漁港議員連盟

会 長 佐々木 喜藏 殿

以下、会長あて要望書写しを配布

副会長 本木 忠一 殿

顧 問 畠山 和純 殿

幹事長 守屋 守武 殿

事務局長 高橋 宗也 殿

事務局次長 櫻井 正人 殿

事務局次長 柏 佑賢 殿

宮城県への要望

宮城県さけます増殖協会要望書提出 出席者名簿

令和3年12月16日(木) 17:15~17:30 宮城県庁舎4階庁議室

要望者

宮城県さけます増殖協会

会長理事 渥美 巖 鳴瀬川水系さけます増殖協会 会長

理事 (代) 管野 幸一 理 事 佐々木 孝男 気仙沼市大川水系さけます増殖協会 副会長 志津川湾水系さけます増殖協会 会長

 理
 事
 佐々木
 武雄
 理
 事
 勝又
 二郎

 北上川水系さけ・ます増殖協会
 会長
 追波川水系さけ・ます増殖協会
 会長

監事菊地幹彦

宮城県漁業協同組合仙南支所(亘理) 運営委員長

事務局 永島宏 松浦 良 吉田 素久

自由民主党・県民会議 水産漁港議員連盟

会長 佐々木 喜藏

副会長 ちゅういち はたけやま かずよし 副会長 本木 忠一 顧 問 畠山 和純

事務局次長 村上 久仁 事務局次長 櫻井 正人

事務局次長 柏 佑賢

宮城県知事要望席次図

日時:令和2年12月16日(木)17時15分から

窓側 場所:宮城県庁行政庁舎4階庁議室 手交・写真撮影 0 佐 勝 佐 佐 渥 寺 管 佐 菊 司会 Þ 又 Þ ħ 美 沢 野 4 地 木 理 木 木 会 副 理 木 監 護 事 長 숲 事 事 副 長 連 孝 会 理 武 会 長 理 代 長 理 理 理 事 事 事 協会事務局 県議 0 0 県議 県議 0 0 県議 県議 0 0 県議 0 0 0 0 水 宫 県 水 産 産 城 産 議 業 林 県 林 基 政 知 政 盤 部 部 整 副 長 備 部 課 長 長 県側関係者 ※机・椅子は動かさない。席は先着順。 入口 入口

○消毒ジェル 廊下側 ○消毒ジェル

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望

令和3年12月16日(木) 17:15~17:30 宮城県庁4階庁議室

次 第

- 1 開 会
- 2 要望書手交
- 3 出席者紹介
- 4 要望者:宮城県さけます増殖協会 渥美巖会長理事 あいさつ・要望概要説明
- 5 知 事 あいさつ・回答
- 6 意見交換
- 7 閉 会

令和2年12月21日

宮城県知事 村井 嘉浩 殿

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

宮城県さけます増殖協会

令和3年12月16日

宮城県知事 村井 嘉浩 殿

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

宮城県さけます増殖協会

宮城県知事

村井 嘉浩 殿

〒985-0812

宮城郡七ヶ浜町松ケ浜字浜屋敷 142番地の1 宮城県さけます増殖協会 会長理事 渥美 巖

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

本県の秋さけ増殖事業は、「つくり育てる漁業」の先陣として、昭和52年度から官民の関係者が一体となって、弛まぬ努力を続けて参りました。その成果が結実し、平成20年度には秋さけの来遊数が340万尾となり、水揚げ金額も35億円を超えて、本県のつくり育てる漁業の模範として高く評価され、秋期における海面漁船漁業の基幹漁業になると共に、内水面漁業関係団体の経営基盤として定着し、水産宮城の一翼を担うまでになりました。

このことは、その先頭に立って指導してこられた宮城県のご尽力 の賜であり、心から感謝する次第です。

一方、近年の地球温暖化による東北太平洋海域の海洋環境の激変により、令和元年から3年続けて秋さけ来遊数が激減し、この未曾有の回帰低迷は沿岸漁業のみならず、水産加工業や流通に携わる関連

事業者にも広く深い影響を及ぼし、地域経済に深刻な打撃を与えて おります。

本県のさけ放流事業は、宮城県方式として海面のさけ水揚げ金額の7%を協力金として事業経費に充当しており、重要な財源となっていますが、令和元年からの沿岸来遊数の激減により、海面からの水揚協力金が大幅に減少したことから、当協会による知事要望で稚魚買上単価の値上げを実現して、金額ベースで2千3百万円の買上増を図ったことや、協会の積立金2千2百万円を取り崩してふ化団体の経営支援金として支給したことにより、令和2年度は県内の15 ふ化団体中5団体のみの赤字経営にとどまりました。しかし、本年漁期においては11月末までの来遊尾数は約3万6千尾(平成30年同期99万3千尾の4%弱 令和2年同期17万6千尾の20%)と更に低迷が続き、県内多くのふ化団体が経営困難となる見込みであり、来年度以降も同様の回帰低迷が継続することに、関係者一同深刻な不安を感じざるを得ない状況であることから、一部の団体はさけふ化放流事業からの撤退を検討し始めています。

ついては、この状況を踏まえ、下記の項目について速やかに支援していただけるよう要望いたします。

記

1 秋さけ来遊数の低迷期においても、さけ資源の維持を図る増殖 事業が継続できるよう、県予算による内水面ふ化放流団体への経 営支援について、より一層の配慮を願いたい。 2 来遊親魚数の低迷による採卵数不足に対応するため、種卵の確保と効率的なふ化放流が実施できるように、県の指導・支援をお願いしたい。

参考

さけ稚魚放流実績

平成30年度5千4百万尾、令和元年度2千万尾、令和2年度2千5百万尾、令和3年度計画3千万尾(見込みは1千万尾)







記者の皆様の質問に対し回答する渥美会長

宮城県議会への要望

宮城県さけます増殖協会 宮城県議会への要望書提出 出席者名簿

令和3年12月16日(木) 16:30~16:45 宮城県議会庁舎3階議長応接室

県議会 議長

東京 けいいち 東地 恵一

農林水産委員会委員長 村上 久仁

自由民主党・県民会議 水産漁港議員連盟

会長 佐々木 喜藏

事務局次長 櫻井 正人 事務局次長 柏 佑賢

要望者 宮城県さけます増殖協会

会長理事 渥美 巖 鳴瀬川水系さけます増殖協会 会長

副会長理事 寺沢 春彦 宮城県漁業協同組合 代表理事組合長

理事(代) 管野 幸一 気仙沼市大川水系さけます増殖協会 副会長

理事 佐々木 武雄 北上川水系さけ・ます増殖協会 会長

副会長理事 佐々木 茂樹 石巻魚市場株式会社 代表取締役社長

理事 佐々木 孝男 志津川湾水系さけます増殖協会 会長

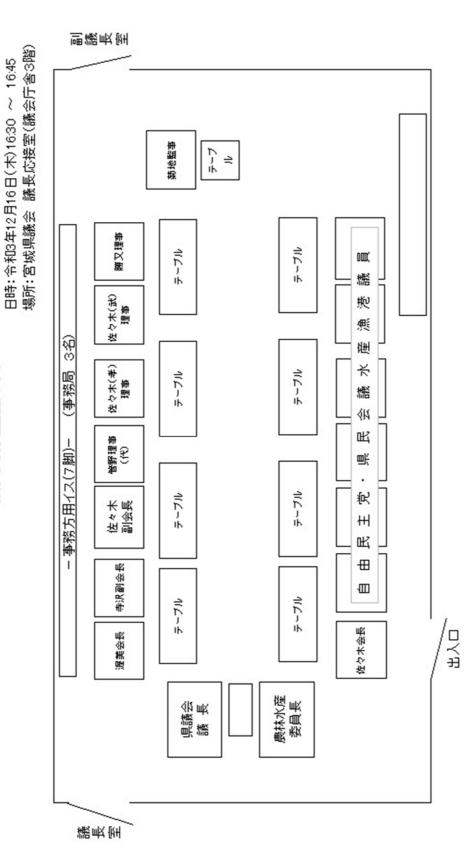
理事勝又ごろう
一郎追波川水系さけ・ます増殖協会会長

監事 菊地幹彦

宮城県漁業協同組合仙南支所(亘理) 運営委員長

事務局 永島宏 松浦良 吉田素久

議長応接室座席表



令和3年12月16日

宮城県議会 議長 菊地 恵一 殿

宮城県農林水産委員会 委員長 村上 久仁 殿

自由民主党・県民会議水産漁港議員連盟 会長 佐々木 喜藏 殿

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

宮城県さけます増殖協会

宮城県議会議長 菊地 恵一 殿

宮城県農林水産委員会 委員長 村上 久仁 殿

自由民主党・県民会議水産漁港議員連盟 会長 佐々木 喜藏 殿

〒985-0812

宮城郡七ヶ浜町松ケ浜字浜屋敷 142番地の1 宮城県さけます増殖協会 会長理事 渥美 巖

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

本県の秋さけ増殖事業は、「つくり育てる漁業」の先陣として、昭和52年度から官民の関係者が一体となって、弛まぬ努力を続けて参りました。その成果が結実し、平成20年度には秋さけの来遊数が340万尾となり、水揚げ金額も35億円を超えて、本県のつくり育てる漁業の模範として高く評価され、秋期における海面漁船漁業の基幹漁業になると共に、内水面漁業関係団体の経営基盤として定着し、水産宮城の一翼を担うまでになりました。

このことは、その先頭に立って指導してこられた宮城県のご尽力 の賜であり、心から感謝する次第です。 一方、近年の地球温暖化による東北太平洋海域の海洋環境の激変により、令和元年から3年続けて秋さけ来遊数が激減し、この未曾有の回帰低迷は沿岸漁業のみならず、水産加工業や流通に携わる関連事業者にも広く深い影響を及ぼし、地域経済に深刻な打撃を与えております。

本県のさけ放流事業は、宮城県方式として海面のさけ水揚げ金額の7%を協力金として事業経費に充当しており、重要な財源となっていますが、令和元年からの沿岸来遊数の激減により、海面からの水揚協力金が大幅に減少したことから、当協会による知事要望で稚魚買上単価の値上げを実現して、金額ベースで2千3百万円の買上増を図ったことや、協会の積立金2千2百万円を取り崩してふ化団体の経営支援金として支給したことにより、令和2年度は県内の15 ふ化団体中5団体のみの赤字経営にとどまりました。しかし、本年漁期においては11月末までの来遊尾数は約3万6千尾(平成30年同期99万3千尾の4%弱 令和2年同期17万6千尾の20%)と更に低迷が続き、県内多くのふ化団体が経営困難となる見込みであり、来年度以降も同様の回帰低迷が継続することに、関係者一同深刻な不安を感じざるを得ない状況であることから、一部の団体はさけふ化放流事業からの撤退を検討し始めています。

ついては、この状況を踏まえ、下記の項目について速やかに支援していただけるよう要望いたします。

- 1 秋さけ来遊数の低迷期においても、さけ資源の維持を図る増殖 事業が継続できるよう、県予算による内水面ふ化放流団体への経 営支援について、より一層の配慮を願いたい。
- 2 来遊親魚数の低迷による採卵数不足に対応するため、種卵の確保と効率的なふ化放流が実施できるように、県の指導・支援をお願いしたい。

参考

さけ稚魚放流実績

平成30年度5千4百万尾、令和元年度2千万尾、令和2年度2千5百万尾、令和3年度計画3千万尾(見込みは1千万尾)

要望書手交の様子



要望書を受け取る石川議長

要望書を受け取る佐々木会長



要望書手交の様子

2021年12月20日 水産経済新聞記事 E

支援を要望した。

ら来遊尾数が著しく減少

渥美会長は、3年前か

エリ 经 濟 辛宁 水 る内水面ふ化団体の経営

県に経営支援を要望

宮城県さけます増殖協会 ふ化放流事業困難

る渥美巖東松島市長は16|数十倍厳しい状況で、来|関係者全員で力を合わす増殖協会の会長を務め|ることを説明。「昨年の|もう戻ってこなくなる。 日、仙台市青葉区の県庁 年以降続けられるか分か せ、何とか継続していき 【仙台】宮城県さけま。〇〇〇尾にとどまってい、に触れ、、やめてしまうと 面している」と窮状を訴 らない。まさに難局に直

死などが指摘されての活動資金は、産地魚市 買い上げ金額の引き上げ に求め、県による稚魚の 協会は昨年も支援を真

たい」と強調した。

渥美会長 (圏から3人目) から要望書を

可欠とし、経営支援を要 望。具体的には、

団体への経営支援 算による内水面ふ化放流 卵確保と効率的なふ化放 流に向けた県の指導と支

援」などを求めた。

国への

厳しい状況に置かれていえた。 舎を訪れ、村井嘉浩知事 に未曾有の秋サケ不漁で 秋サケ不漁で 帯 曽 有 の

5 による放流稚魚の斃(ヘ)円の補助を受けた。協会 いては、海水温の温暖化という形で約2300万 来遊数激減の原因につ

し、昨年はピーク時の2」いるが、「はっきりとは一場から受けている「水揚 |放流尾数に直結すること| 昨年時点でも不足してい 説明。一方で、回帰率がの7%)」で賄っており、 分からないのが実情」と協力金(秋サケ水揚金額

が、今年は11月末時点で

さらにその2割の3万6 割ほどの約18万尾だった

秋サケ 県内不漁 温暖化影 ピー ク

0)

1

%

望した。

遲美会長理事は村井嘉姓

ための種卵の確保を強く問

か

切りたい」と強調。 で力を合わせて難局を乗り 知事との会談で、

年度)の約340万匹のわ 匹と、ピーク時(2008 末現在) は約3万6000 数を合わせた来遊数(11月 岸の漁獲数と河川の捕獲 すか1%程度にとどまる。 个漁に見舞われている。 沿 県内で秋サケが記録的な や、国・県による事業費補 に持ち直したものの、近年 で協力金収入が落ち込むな 助で運営されている。不漁 水揚げ金額に応じて漁業者 は急減している。 県内のふ化放流事業は、 体が損失を計上した。本年

韓民 2021年(令和3年)12月17日(金曜日) みやき

どして、20年度は事業を主 会を訪れ、団体への経営支 ら幹部が16日に県庁と県議 美嚴会長理事(東松島市長) 始めたという。 は事業からの撤退を検討し

陥る見込みで、一部の団体 度は多くの団体が経営難に 県さけます増殖協会の渥

な魚種の一つ。生産者だけ がら、事業を継続できると でなく加工業者も大変苦 場社長)は「秋サケは重要 き掛けや種卵の確保をした めている。今後も国への 題は非常に深刻だと受け、 い状況だ」と訴えた。 村井知事は一秋サケの

内の来遊数と稚魚放流数の 内の来遊数と稚魚放流数の 本大震災前の来遊数は30 の方匹を超えていたが、震 り、放流された川におよそ 関係者は危機感を募らせ 原因は特定されておらず、 との見方があるが、明確な 県などによると、サケは 4年をかけて戻る。県 放流数共に一時的 の町地方卸売市場 深刻な不振が続く秋サケの水揚

第一

SE

2021年12月17日河北新報記事

境の変化が影響している 地球温暖化による海洋環

援や 3,000 2,500 来遊数 1,500 う努力したい」と応じた。 500

たため協会の積立金を | いう非常に厳しい状況に

しかしそれでも「15団体 そのため、事業継続に 部取り崩して対応した。 なっているという。 のうちら団体が赤字」と一は県のさらなる協力が不

受け取る村井知事(その個) 稚魚をより大きく育てて 確保により一層力を入れ 対策の働き掛けや、種卵 らない」とし、 も支えていかなければな たい」などと応じた。 渥美会長は、協会でも 村井知事は「県として

める可能性を探り、ふ化 放流を今後も続けられる し、「稚魚の生残性を高 流の時期をずらしたり 斃死しづらくしたり、 ようにしたい」と話して 放